

Annual report 2017

2017 年度 事業報告書

盛岡 YMCA の使命

私たち盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども・家族・地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

- 1 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
- 2 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
- 3 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

盛岡 YMCA 2017 年度基本聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(新約聖書 ローマの信徒への手紙 12 章 15 節)

盛岡 YMCA 2017 年度 全体行動目標

盛岡 YMCA が行う全てのプログラムを通して以下の価値を子ども、家族、地域に伝えていく。

- 1 他者の悲しみを自分のことのように悲しむことができること。
- 2 他者の喜びを自分のことのように喜ぶことができること。
- 3 自分がしてほしいことを他者にもすることができること。

ごあいさつ

社会の課題に取り組む YMCA へチャレンジ

2017 年度、盛岡 YMCA はチャレンジとして「盛岡 YMCA は他者のために存在する。自己目的だけのために存在するのではない」というメッセージを掲げました。YMCA のような非営利団体は本来その使命を実現するために事業や活動があるのですが、ともすると手段が目的化し本来の方向性を見失ってしまいがちです。盛岡 YMCA は財政的に厳しい時代が長く続いてきましたがここ数年は、財政基盤が整いつつあります。私たちはこうした状況に安住することなく、「本来 YMCA は何のために存在するのか」という原点に立ちもどり、職員、役員をはじめワイズメンズクラブ、ユース・ボランティアリーダーの皆さんが一丸となり、YMCA に集う会員の方々を巻き込んで地域や社会の課題にチャレンジしていこうという意志決定のもと、2017 年度はスタートしたのです。

チャイルドケア事業においては盛岡市本宮地区の放課後児童の居場所を確保するため新たに、「盛南センター」を開設しました。このことにより、「本町センター」「前潟センター」「向中野センター」と合わせて市内 4 箇所盛岡市の委託を受けて、「放課後児童クラブ」運営することとなりました。そして、放課後児童クラブの運営を通して地域に進出し、従来から行ってきた青少年育成事業（サッカー、水泳、野外活動）にリンクさせ、こうした YMCA が提供するプログラムを通して、そこに集う子どもたち、家族、さらには地域に対して盛岡 YMCA の基本聖句に現される「喜びを共にし、痛みを分かち合う地域社会」を目指す価値を伝えてきました。

また、「チャリティーラン実行委員会」「ユース委員会」という 2 つの委員会を設置し、市民の方々やユース・ボランティアリーダーに参画いただき「第 1 回盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーラン」やいじめのない社会を目指すピンクシャツデー特別講演会「今を楽しむには」を開催することができました。一方、東日本大震災被災地復興支援事業につきましては、宮古ボランティアセンターは 3 月末をもって閉鎖しましたが、週 1 回の宮古小学校でのサッカー教室、野外活動は今後も継続していきます。

盛岡 YMCA は YMCA に集う一人ひとりを大切にしつつ、地域や社会の課題に目を向け、その解決に向けて集う一人ひとり、地域社会と共に歩んでいく団体を目指していきます。これからも皆さまからのご支援を心よりお願い申し上げます。

理事長 魚住英昭

常議員会議長 井上修三

総主事 濱塚有史

1. 全般報告・評価

2017年度 盛岡 YMCA 全体事業方針・計画評価

1 盛岡、宮古において地域の抱える課題に取り組む YMCA 作りの実現に努める

1) 盛岡 YMCA 中期計画「ACTION 2020」を策定する。

盛岡 YMCA に集う、ユース・ボランティアリーダー、理事、常議員、職員が一同に集い、それぞれが持つビジョンを出し合い、語りあう機会「盛岡 YMCA 大会」を開催する予定でしたが、実現にいたりませんでした。盛岡 YMCA の将来構想は、全国の YMCA が推進している。ブランディングについての内部の理解を深めた上で丁寧に準備を進めていく必要があります。こうした中、2019年3月21日に盛岡 YMCA 大会が開催されることが、常議員会、理事会で決議されました。事業面での中期計画は今後策定して行く必要がありますが、運動面を含めた包括的な中期計画は、多くの方々の意見を受け止めながら、全国の YMCA が進めるブランディングに沿って丁寧に策定していきます。

2) 各センター、各事業が行うプログラムを通して参加する、子どもたち、家族、地域に盛岡 YMCA の伝えたい価値を伝える。

3) 発達障がいを抱える人たち、その家族を支援する活動に取り組む。

4) いじめの問題に取り組む。

「第1回盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーラン」「国際協力募金」「ピンクシャツデー」と盛岡 YMCA は全国の YMCA が実施する3つの大きな運動に加わってきました。これらについては、ただイベントとして行うことを目的とするのではなく、「何故行うのか、課題を解決するにはどうしたら良いのか」プログラムに参加する子どもたちに問いかけ、共に考えていくという取り組みを丹念に行ってきました。こうした中、チャリティーランにセンター単位で参加したり、街頭募金にボランティアに参加するなど、普段プログラムに参加している子どもたちや、保護者の皆さんも関わって下さるような成果が見られるようになってきました。

5) 貧困の課題に地域の団体と協働しながら取り組む。

6) 地域の関連する諸団体とのネットワークを構築し積極的に交流する。

盛岡 YMCA の開催するイベントに他団体の方々も委員として参加していただき、少しずつネットワークを構築できるようになってきました。一方、貧困に係る諸団体との繋がりを持つことはできましたが、具体的なアクションを起こすまでの取り組みまではいたっていません。今後、盛岡 YMCA としては、YMCA の行うプログラムに経済的理由により、参加できない子どもたちを支援する「ポジティブネットこども募金」など全国の YMCA では既に行っているの取り組みを調査し、実行に移していく課題があります。

2 全体行動目標の実現に向けて、盛岡 YMCA の財政的、組織的な基盤を強固なものにする。

1) 日本 YMCA 同盟の加盟基準ならびに総務ハンドブックに基づいて、会則、諸規定を整備する。

新たに本部事務局主任主事（兼務）を置き、総務機能の充実に努めてきました。総務ハンドブックに基づいて準備を進めている段階です。

2) YMCA 運動を推進する職員の資質の向上、ボランティア、役員の YMCA 理解の向上に努める。

4月に埼玉で開催された東日本区 YMCA の研修会に6名の理事、常議員、職員が参加しました。また、職員の中から、自発的に YMCA 理解、キリスト教理解の学びの機会を持ちたいという声上がり、日本 YMCA 同盟の元主事である日本キリスト教団内丸教会の中原真澄牧師を講師に月1回のペースで勉強会が開催されるようになりました。ユース・ボランティアリーダーについては、19回のリーダートレーニングを開催し、述べ675名の学生が参加しました。

3) 維持会員、ボランティア・リーダー、ワイズメンズクラブなど、リソースパーソンの増強に努める。

ボランティア・リーダーの増強については、リーダー会を中心とした組織的な募集活動や、普段の活動における真摯な関わりにより、登録者数は100名を超えるマンパワーとなりました。また、日本キリスト教団の内丸教会のご協力のもと、会堂2階の1室をリーダーの集会場として提供いただき、遅くまで、キャンプや盛岡 YMCA が行う様々なプログラムを準備したり、話し合ったりする若者の居場所を設けることができました。

1) 世界 YMCA 同盟が推進するユースワンパワーメントに積極的に取り組む。

3 世界の YMCA、日本の YMCA の推進する運動に積極的に協働していく。

8月に日本 YMCA 同盟東山荘で開催された「地球市民育成プロジェクト」に1名、10月に広島で開催された「全国 YMCA リーダー研修会」に2名、3月に開催された「ネパールワークキャンプ」に2名の学生ボランティアを派遣することができました。また、ユースの職員2名が2月に福島県南相馬市で開催された「東日本 YMCA 職員研修会」に参加することができました。参加した一人ひとりが新たな出会いを通して感じたことを、他のユースに伝えることができました。

2) 国際協力募金を会員を含め積極的に推進する。

11月23日に開催された街頭募金には、プログラム参加者の小学生を中心に、52名が参加しました。

3) 被災地復興支援活動に取り組む

毎週火曜日に宮古小学校で行っているサッカー教室が人気で30名のメンバー集まっています。

4) 日本の YMCA の進めるブランディングに盛岡 YMCA のアイデンティティをしっかりと確保しながら協働していく。

盛岡 YMCA は積極的に取り組み、看板、車両のマーク、各種印刷物、ホームページの刷新は年内に完了しました。

5) 海外の YMCA とのパートナーシップを結ぶ準備を開始する。

常議員、ワイズメンズの方々のネパール訪問にスタッフを同行させ、ネパール YMCA を訪問する機会を得ることは、できましたが、組織として具体的な準備、取り組みを行うことはできませんでした。 (総主事：濱塚有史)

2. 各種委員会 報告

第1回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン実行委員会

2017年9月23日(土・祝)に第1回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーランが開催されました。仙台YMCAをはじめ、他YMCAの皆様にご指導いただき、実行委員会の方達と共に11月より準備を進めてきました。違いを超えてつながることの大切さや、障がいのある子どもたちやその家族に自信と励ましを与え、そうでない方々と共に生きる社会づくりを考える機会になればという願いに賛同頂き、多くの方々の参加、ご支援をいただきました。2018年度の第2回もより多くの方たちとつながり、障がいのある人も障がいのない人もすべての人たちが共に幸せに暮らすことのできる社会になるために、私たち一人ひとりが何をしていくべきかを考える機会となり、共に違いを超えてつながる社会の実現へ向かっていければと思います。第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーランもどうぞよろしくお願いいたします。

▼トピックス

- ・ たすきリレー参加チーム：23チーム
- ・ チームスポンサー：6チーム
- ・ ランナー128名
- ・ ボランティア：103人
- ・ その他来場者数：72人
- ・ 寄付金を頂いた企業の皆様：26社
- ・ チームスポンサーの皆様：7
- ・ 個人寄付金を頂いた皆様：18名
- ・ 物品寄付を頂いた企業の皆様：12社
- ・ ブース提供・ステージ協力を頂いた団体・企業の皆様：9
- ・ 実行委員会：12名 担当スタッフ：2名
- ・ 益金：1,171,857

▼1年間の歩み

- ・ 実行委員会 11月～10月(12回)
- ・ 2017年9月23日(土・祝)開催



(担当主事：伊藤真太郎)

ユース委員会

2017年度のユース委員会は、月に約1回のペースで委員会を開き、悩みや課題を抱える若者たちのために何ができるか、何を行っていくべきかを検討していきました。行った主なプログラムは、7月に行った中高生キャンプ、2月に行ったピンクシャツデー特別講演会です。参加人数はそれぞれ10名に満たないものではありませんでしたが、参加した中高生は良い表情をして過ごしていたと感じています。また、中高生支援募金として、多くの方に募金を頂き、その募金で経済的にキャンプへの参加が難しい子への参加費の減免、免除など行ったり、講演会の活動を行ったりする事が出来ました。支援を下された方々には心より感謝しております。

今年度は行えませんでした。このような活動を通して関わった中高生たちを中心とし、仲間や地域に発信をしていける様な中高生ボランティア組織の立ち上げや、既存の中高生組織との連携なども模索していきたいと考えています。

また、いじめ反対運動として行っているピンクシャツデーの活動では、子どもたちや家族の方々が、それぞれで考えた事を文字や口に出して表現し、いじめを自分事としてとらえる一つのきっかけになる事を願い、YMCAの各プログラムでメンバー個人、参加したメンバー同士、また家族でいじめについて考える様々な機会を設けました。盛南センターでは、訪問おはなし隊ボランティアの『あーちゃん隊』の方々に来て頂き、学童の子どもたちを対象に絵本の読み聞かせを行いました。その様子をめんこいテレビ、岩手日報が取材してくれ、地域に対してこのような活動を行っている事を発信しました。また、いくつかの外部団体にも趣旨を説明し、理解して頂いた上で、SNS等での発信等を行って頂きました。

ユース委員会では今後も青少年の抱える悩みや課題に向き合っていく、少しでも力になれる、安心できる場や時間を作る事が出来る様、努めていきます。

▼ トピックス

- ・2017年度中高生支援募金の総額は286,540円。
- ・中高生キャンプは参加者6名。
- ・講演会は参加者7名。

▼ 1年間の歩み

- ・7月28日～30日 中高生キャンプ（参加者 6名 於：岩手山焼走り国際交流村）
- ・2月24日 ピンクシャツデー特別講演会「今を楽しむには」（参加者7名 於：仁王地区活動センター）
- ・2月28日 ピンクシャツデー（2月28日また28日に向けてYMCA各センター、各活動において取り組みを行った。）
- ・2017年4月～2018年3月まで 月に一回のペースでユース委員会を開催した。（4月、12月のみなし）（担当主事：小川嘉文）



↑盛南センターで行った読み聞かせの様子。

3. 各センター報告

本町センター

2017年度の本町センターは、地域貢献活動や学童の対象校との関係性を深めるなど、つながりのある他団体や施設等との交流に重点を置いてアクションプランを設定していました。地域貢献活動に関しては、2016年度引き続き本町通の落ち葉拾いを実施することが出来ました。しかし、落葉からの積雪が早かったため子どもたちとともに作業ができた期間が短く、前年度ほど活動を行うことは出来ませんでした。同じように落ち葉拾いをする地域の方との交流にもなるので今後も継続していきたい活動です。また、7月には本町センター協の道の草むしりを子どもたちと一緒にいき、道を塞いでいた雑草を取り除きました。さらに、3月には近隣公園でゴミ拾いを行い、15分程度で買い物袋がいっぱいになるほど多くのゴミを拾いました。町内会との関係は、なかなか交流する機会が取れず関係性が特に進展することがなかったため、今後具体的に行える活動を検討していきたいと思います。学童対象の小学校との関係は、学校によって差はありますが少しずつ進展しています。仁王小学校は定期的に学校でのお便りをいただける他、年に数回行われる学童等に参加している子どもの集会に呼んでいただいています。桜城小学校は学校でのお便りをいただける他、盛岡Y M C Aのチラシを配布していただけるようになりました。Y M C Aニュースの配布は、ほぼ毎月対象校すべてに配布することが出来ています。学校側も学童と協力して子どもたちを見守るという方法に積極的な意向を見せてくれているので、更に交流を図ってきたいと思います。また、学童とのつながりだけでなく、Y M C Aとして関わられる活動が出てくると良いかと思います。

施設管理に関しては、学童スペースは2ヵ月に1回大掃除を設け、環境整備に取り組みました。ガスを通し、冬場の手洗いも快適になりました。本町センター事務所は頻繁ではないものの定期的に清掃を行いました。

▼トピックス

- ・ 子ども110番に登録した
- ・ 学童のハロウィンパーティに内丸教会が協力してくれた
- ・ 学童では「今月の目標」を子どもが主体となって考え、生活するという取り組みを始めた

▼1年間の歩み

- ・ 学童への参加人数42名(2017年度3月末)
 - ・ 学童パート人数12名(2017年度3月末)
- の道の草むしりをしている子どもたち

本町センター脇



(本町センター副所長：家村知佳)

前潟センター

2017年度のぷらいむ・たいむ前潟校は1年生11名、2年生9名、3年生7名、4年生6名、5年生7名、6年生5名の計45名でスタートした。前潟校は目の前を流れる諸葛川や、隣接している公園、付近に大型ショッピングセンターがあり、そして秋田新幹線「こまち」と岩手山が一望できるという子どもたちにとっては最高のロケーションに立地している。1年前に諸葛川河川敷に開墾した畑は継続して野菜の栽培から収穫までを子どもたち自ら行い、当初、子どもたちが何を栽培したいのかというアンケートを取りながら進めていく予定だったが、栽培環境と技術が必要となるものばかりが選択されたため、今年もミニトマトやとうもろこし、さつまいも、じゃがいも等手軽に栽培できるものを栽培から収穫、調理を子どもたちと行った。畑の敷地面積を拡張する予定だったが、年度中に行うことができなかったため、2018年度には拡張し、子どもたちが楽しんでほしいことができる畑づくりを目指す。「食育」という観点からは、なぜ「いただきます」「ごちそうさま」という感謝の言葉をいうのかを畑作業を通して徐々に浸透させ、畑作業を行うようになってからは地域住民の方から声をかけていただく事が増えてきている事から「神を愛し、土を愛し、隣人を愛す」という三愛精神を一番体现できる学童だと感じる。地域奉仕活動としては子どもたちによるゴミ拾いを行った。夏休みや冬休みの長期休みにはたくさんのイベントを行った。みちのくプロレスの練習場に出向いての体験練習、盛岡中央消防署見学、前潟校での映画観賞会、餅つき大会、絵本読み聞かせ会などを行った。その他として、9月2日(土)～3日(日)に前潟センターにて学童参加者による「お泊り会」を行った。学童参加45名の内、39名が集い、バーベキューや買い物、料理、そして仲間と入るお風呂など絆を深める機会を目的としている。10月にはハロウィンパーティー、12月にはクリスマスパーティーを、月に1度のお誕生会と、子どもたちへのプログラムの提供を行っている。

▼ トピックス

男女の比率が3：1と男子の人数が大幅に上回った。

角谷理事による子どもたちとの野菜植樹祭。

地元プロレス団体との交流を図った。

職員2名による近隣小学校のスキー教室へボランティア参加

▼ 1年間の歩み

5月1日 畑作業開始

8月10日 盛岡中央消防署見学(24名)

9月2日～3日 前潟校お泊り会(39名)

9月23日 盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン参加(10名)

12月27日 前潟校漬物体験会(28名)



学童前河川敷でのお花見のようす

(前潟センター所長：東森聡)

向中野センター

ぷらいむ・たいむ向中野校は2017年度、児童数98名でスタートしました。そこからサッカーや水泳、体育教室などウエルネスプログラムに参加する子が数名おり、少しずつではありますが、学童でYMCAの価値が伝わり、それが他の活動への参加という形で表れているように感じております。

学童では、2月に1回のペースで行われる誕生日会や、ハロウィンなど季節の行事に合わせた活動を行いました。また、ぷらいむ・たいむ盛南校のメンバーと向中野校のメンバーが一緒になり、土曜日の時間を過ごすことや、一緒に恵方巻づくりを行うこと、公園や校庭での外遊びやプログラムなどを通して交流を深めてきました。また、カロム大会を開催し、他の学童とも交流の機会もありました。

向中野校の子どもたちは、限られた空間の中でも日々元気いっぱい遊んで過ごしています。その中で子ども同士のぶつかり合いやすれ違いもありましたが、その度、職員同士の話し合いや引継ぎを大切にしてきました。2017年度の後半には、面倒見の良い6年生の姿や、以前は一緒に遊ばなかった子同士が遊んでいる様子が増えてくるなど、子ども同士の関係の変化や深まりが見られました。

向中野センターとしては、運動会に向けグラウンドの石拾い、運動会当日の施設開放、ぷらいむ・レターの学校への配布などを通し、地域や学校との関係づくりに努めました。また、地域に向けたバザーを今年も行い、地震で被災された熊本への支援金として益金を充てさせて頂きました。学童の子どもたち、保護者の方、リーダー、ワイズメンズクラブの方々、スタッフの方々に加え、新たにぷらいむ・たいむ盛南校のメンバーも加わり、力を合わせて活気のある活動となりました。当日は150名以上の方が来場し、年を重ねる度に少しずつ活動が広がりを見せています。

2018年度からも子どもたちのことを第一に考え、職員、リーダー、保護者の方、学校や地域の方など様々な方との連携・協力を深め、活動に努めていきます。

▼トピックス

- ・ 運動会の際、向中野センターの施設開放を行った。
- ・ バザーを行った。
- ・ カロム大会を行った。

▼1年間の歩み

- ・ 5月27日 運動会当日 向中野センター施設開放
- ・ 9月10日 向中野センターバザー開催
- ・ 6月25日、8月20日、1月21日 カロム大会開催



↑大部屋にて組体操をして遊ぶ子どもたち

(向中野センター副所長：尾形裕一郎)

盛南センター

2017年度新たに開所した、盛南センターは学童保育の質を充実させること、職員の質の向上を図ることを大きな柱として取り組みを行った。まず学童保育の質を充実させるという部分であるが、開所当初はそれぞれが自分の思いを発信することが難しい場面や、逆に他のメンバーに気を遣うことが出来ず、自分本位の発信となっている場面が見られた。しかし、月を重ねていく中で、子どもたちの「やりたい」「やってみたい」に寄り添い、生活をしていく中で、メンバー一人ひとりがお互いを認め合いながら、言いたいことは伝えるといった関係を築くことが多少はできたのではないかと考える。しかし、保護者へ日々の生活の様子を伝えるという部分に関しては、もっと詳細を伝えられる機会があったように感じる。また、保護者の方から家庭での様子をうかがうような話をする事が出来れば、子どもたち一人ひとりが実際に学童をどのように感じているのか、更には、保護者の方はどのように捉えているのかを把握することが出来、更に質の充実につながったのではと考える。そのためには、学童のお便りの作成配布をもっと計画的に行うことも必要であったと考える。

職員の質の向上について、スタッフ2名で学童の方向性とその時その時に子どもたちがどのような状態にあるのかを共有する時間をもっと丁寧に取り組むことが出来れば、子どもに対しての捉え方、考え方がもっと変化したとを感じる。パートスタッフは、月1度のセンタースタッフミーティングを通して、YMCAへの理解を図ると同時に、子どもたちをどのように捉えていくのかという部分を共有することが出来てきた。細かい部分は全員がさらに努力をしていく必要があるため、今後もどのような形で質の向上を図っていくのかについてはしっかりと吟味をして進めていきたい。

2017年度は地域との関係づくりという視点では非常に物足りない結果となった。この点についても、いつ誰がどこでどのように行うのかについてはっきりとさせ取り組んでいきたい。

▼ トピックス

- ・夏休みは滝沢中央公園や御所湖広域公園での水遊びを楽しんだ
- ・冬休みは中央公園でのそり遊びを行った
- ・本町、前潟、向中野の学童へ出向き、子どもたちの交流を初めて図った。

▼ 1年間の歩み

- ・4月開所
- ・各月誕生会
- ・7月七夕、夏休み特別行事、10月ハロウィンパーティ、冬休み特別行事、1月各学童訪問交流、



公園での遊び風景

(盛南センター所長：浅沼慧)

4. 各事業・活動報告

ウエルネス事業

2017年度ウエルネス事業は会員増強、幼児教室の増設、スタッフ・リーダー研修、体育教室の新設に取り組んできました。会員増強に関しては、それぞれのプログラム担当スタッフに具体的なアクションプランを作成してもらい、会員増強へ向けて具体的な計画を立ててもらい実行してもらいました。また、各センターの学童を対象に無料体験を長期休みに行い、興味を持ってもらえるきっかけを作ることができました。幼児教室の創設に関しては、サッカー水泳共にスタッフ体制などの課題もあり実現することができませんでしたが、くろいしの保育園でサッカースクール、体育教室を今年度も実施することができました。通年を通して幼稚園や保育園での出前教室ができないか今後も調査を継続していきたいと思います。スタッフ・リーダー研修ですが、十分に行うことができませんでした。水泳に関してはスタッフトレーニングを2回実施しましたが、サッカーに関しましては実施することができませんでした。質の向上のためにも2018年度は計画的にスタッフ・リーダー研修を実施できればと思います。最後に2017年度の大きなチャレンジとして体育教室を新設に取り組んできました。横浜YMCA、茨城YMCAの視察や長期休みの無料体験を行い、幼児教室と小学生教室の2つのクラスを新設することができました。場所・用具の課題など、まだ様々な課題を抱えていますが、一つ一つ丁寧にその課題を解決し、サッカー・水泳と共にウエルネス事業の柱となるよう努力していきたいと思います。2018年度以降も各センターの学童の子どもたちにYMCAの価値を知ってもらい、感じてもらうことで、ウエルネスプログラムとつながり、参加していただき、共によくなっていくことが大切だと感じています。すべてのプログラムで子どもたちが自ら育つ環境を整え、その力を最大限に引き出していければと思います。

▼トピックス

- ・ サッカー会員：124名
- ・ 水泳会員：126名
- ・ サッカー大会（年3回）：166名参加

▼1年間の歩み

- ・ ファミリーサッカーフェスティバル：7月2日開催
- ・ チャンピオンズカップ：11月3日開催
- ・ フットサル大会：3月10日開催
- ・ 体育教室短期集中教室（8月1日、2日、3日）：6名参加
- ・ 体育教室（幼児クラス、小学生クラス）新規開設：10月～



（担当主事：伊藤真太郎）

チャイルドケア事業

2017年度は、学童保育ぶらいむ・たいむ盛南校が4月に新たに開校し、4つの学童でスタートしました。各校の学童ニュースの定期的な発行やお迎えの際に保護者の方と積極的にコミュニケーションを取り、保護者の方に学童の中での様子を伝えるとともに、各校対象の学校、町内会へも配布を行うことにより、地域の方へYMCAの想いや活動の様子を発信する事を目指しました。町内会等は配布ができていない所もありましたが、各学童の対象の小学校には定期的な配布を行い、学校からの理解・信頼も段々と得られてきていると感じています。今後は、地域の方へ積極的に発信をしていく事が課題と感じています。

また、4つの学童間での交流の機会をもつため、外部団体の協力の元、向中野センターを会場にカロム大会を年に3回開催しました。この大会では各校から参加者が集まり、入り混じっての個人戦やペア戦、また各校毎でチームを組んでの団体戦などを行いました。さらに1月、3月の長期休暇期間には、盛南校の子どもたちが、他の3つの学童を訪れ、合同の交流プログラムを行う特別活動も行いました。今年度は例年に比べ、学童を越えての関わりを持つ機会を多く持つことが出来ました。

各学童からウエルネスプログラム(サッカー、水泳、体育教室)、野外プログラム(アドベンチャークラブ、季節キャンプ)への参加者も増えてきています。YMCAを理解して頂き、信頼してもらえてこそ他の活動にも参加してもらえると感じていますので、そういった意味では各校これからも学童を通してYMCAへの理解、信頼を築ける様務める事が他の活動へとつながっていくと考えています。

地域への発信や保護者の方、地域の方との協同など今後課題となる事はありますが、着実に関係を築きながらそれぞれの地域に根差した学童を目指していきます。

▼ トピックス

- ・学童間での交流の機会を増やすことが出来た。
- ・学童対象の無料体験を通じてサッカースクールへの参加メンバーが増えた。

▼ 1年間の歩み

- ・6月25日、8月20日、1月14日 カロム大会
- ・1月9日ぶらいむ・たいむ盛南校、ぶらいむ・たいむ前潟校交流特別活動
- ・1月10日ぶらいむ・たいむ盛南校、ぶらいむ・たいむ本町校交流特別活動
- ・1月11日、3月26日ぶらいむ・たいむ盛南校、ぶらいむ・たいむ向中野校交流特別活動



↑カロム大会ペア決勝。本町校ペアと前潟校ペアの対決で開始前の握手の時間

(担当主事：小川嘉文)

野外活動事業

2017年度の新規プログラム（ファミリー、シルバー）の調査・パイロットプログラムの実施、プログラムの質の向上を主に取り組んできました。新規プログラム（ファミリー、シルバー）の調査・パイロットプログラムの実施に関しましては、他Y M C Aや地区活動センター、学童の保護者の皆様に協力をいただき調査を行いました。悪天候によりパイロットプログラムを1回中止しましたが、2018年度へ向けて十分な活動を行うことができました。また、年末には野外活動に関するアンケート調査も盛岡Y M C A全会員を対象に行いました。Y M C Aの野外活動にどのようなことを期待しているのか、また現在あるプログラム（ウエルネス・野外）以外にどのようなプログラムを希望するかなどのアンケートを実施しました。新規プログラムの調査とアンケートにより、2018年度からは新たな体制で野外活動事業がスタートします。幼児～小学3年生クラス（こぐま）、小学3年生～中高生クラス（カシオペア）、ファミリークラス（オリオン）、シルバークラス（すばる）の4つのクラスで例会を行い、よりターゲットにあった内容の野外活動を実施していきます。また、季節キャンプでは、泊数の選択肢を多くすると共に、よりアグレッシブでダイナミックな活動になればと願っております。自然とつながり人とつながる、自ら育つ、共に育つ、そんな野外活動に、そして2018年度より、より進化した野外活動事業が盛岡Y M C Aの柱となる事業へと成長していければと思います。

▼トピックス

- ・ リーダートレーニング年間：24回開催、合計：735名参加
- ・ 野外活動例会年間：12回開催、合計：214名参加
- ・ 森のようちえん年間：1回開催（2回中止）：6名参加
- ・ ファミリープログラム：年間：1回開催（1回中止）：9家族参加
- ・ シルバープログラム：年間：1回開催：6名参加
- ・ サマーキャンプ：143名参加
- ・ ウィンターキャンプ：74名参加
- ・ スプリングキャンプ：9名参加

▼1年間の歩み

- ・ ファミリープログラムの調査、パイロットプログラムの実施
- ・ シルバープログラムの調査、パイロットプログラムの実施
- ・ サマーキャンプ説明会開催（3回）
- ・ ウィンターキャンプ説明会開催（2回）



（担当主事：伊藤真太郎）

東日本大震災被災地復興支援 事業

2017年度は毎週火曜日のサッカースクール、年間5回の野外活動、夏のキャンプを行なった。サッカースクールでは毎週開催しているほかに、盛岡で開催された盛岡YMCAチャンピオンズカップへの参加、3月17日～18日で2回目となる宮古サッカーお泊り会が開催された。サッカースクールへ通っていた参加人数は3年生28名、2年生6名、1年生3名の合計37名であった。今年度は天候に悩まされたが、校庭でのサッカースクールができないとなると宮古小学校の昇降口付近で学童の子も加えて鬼ごっこやプログラムを実施した。その他にも関東の学生YMCAを昨年度に引き続き招き、幅広い関わりを持つことを目的として活動を行なった。幅広い関わりという点では、お泊り会の企画として保護者の方を招待し、サッカースクールに通う子どもたちとその保護者、そしてリーダー・スタッフでのファミリーサッカーフェスティバルを開催した。普段ご支援いただいている保護者の方とも交流を持つことができた。さらに、2017年度はサッカースクールへ通っている子どもたちの中から野外活動プログラムへの参加も増えた。

2017年度の宮古野外活動は5・6・10・12・2月の計5回実施された。参加した子どもの人数は5月8名、6月13名、10月19名、12月16名、2月16名の延べ合計72名であった。今年度の野外活動は全ての回で野外調理を行い、食に対する関心と、当たり前につく火や電気のありがたみを感じてもらおうという狙いの下、薪割り・火付けに挑戦した。参加人数も徐々に増え、リピーターからの広がりも見られた。

その他にも東日本スタッフ研修会にてスタッフ2名が福島県浪江町など原発被害にあった地域を訪問した。今後学びを深め、同じ東北として大学生などを対象とした福島の現状を学ぶ機会を作る。

▼ トピックス

宮古サッカースクール 開催時間変更 15:30～17:00

盛岡YMCAチャンピオンズカップ連覇

お泊り会内にて宮古ファミリーサッカーフェスティバル開催

▼ 1年間の歩み

5月14日(日) カレーNo1決定戦

6月11日(日) 棒でパン!?

10月8日(日) やきいもグーチーパー

11月3日(金・祝) 盛岡YMCAチャンピオンズカップ参加

12月3日(日) Merry X'mas～クリスマスキャンドルを作ろう～

1月24日(水)～25日(木) 第13回東日本地区YMCAスタッフ研修会

2月18日(日) 目指せ! 風揚げ名人 3月17日(土)～18日(日) 宮古サッカーお泊り会



宮古サッカーお泊り会での1枚。総勢50名でのファミリーサッカーフェスティバルとなった。

(担当ディレクター：向平 悟)

国際協力活動

2017年度国際協力活動は、募金活動による資金援助、ワークキャンプにボランティアリーダーを派遣する人的援助を主にを行いました。

11月23日に行った国際協力街頭募金では、盛岡市内大通りを中心として、開運橋もと、安全十字路(北日本銀行大通支店前)、川徳前、Nanak(ななっく)前の4か所に立ち、募金への協力を市民の方々にお願いしました。当日は盛岡YMCAのプログラムメンバー、中学生、大学生ボランティアリーダー、社会人リーダー、ワイズメンズクラブ、スタッフら52名が集い、活動を行いました。52名のうち33名が未就学児から中学生までの子どもたちの参加となり、各所での募金活動で大きな声で募金への協力の呼びかけ、なぜ募金が必要なのかを伝え続けてくれました。その声に多くの方が足を止めて下さり、募金への協力をしてくださいました。そのような声をより多くの方に発信したいと考え、毎年行っている場所の他に、大きな店舗の内外で行うことができないか検討や、いくつかの店舗と交渉を行いました。実現可能には至りませんでした。今後は、未交渉の店舗への交渉の検討等、現在行っている場所の他にも行える場所の可能性の模索が必要と考えております。

また、2月には日本YMCA同盟主催のネパール地震被災地支援ワークキャンプに、盛岡YMCAから2名の大学生ボランティアリーダーを派遣しました。今回のようなワークキャンプに派遣するにあたり、今後は大学生ボランティアリーダーへの資金援助を行える様、理解と協力を得ていくことも課題と感じております

他人ごとを自分ごととして捉える。国際協力活動では今後もその事を大切に、活動を行っていきたいと考えています。



↑国際協力街頭募金活動の様子

▼ トピックス

- ・国際協力街頭募金活動で52名の当日ボランティアが参加。そのうち中学生までの参加者が半数を超えた。
- ・2017年度盛岡YMCAから日本YMCA同盟へ送金した国際協力募金の総計は249,014円。
- ・2月に行われた日本YMCA同盟主催のネパール地震被災地支援ワークキャンプにボランティアリーダー2名を派遣した。

▼ 1年間の歩み

- ・11月23日 国際協力街頭募金活動 (当日ボランティア52名参加 於：盛岡市大通近辺)
- ・11月1日～3月31日 国際協力募金活動 (各活動の会員、維持会員の方々に募金をお願いを行った。)
- ・2月20日～26日 ネパール地震被災地支援ワークキャンプ (盛岡YMCAから2名のボランティアリーダーを派遣)

(担当主事：小川嘉文)

リーダー会

昨年度のリーダー会は、内丸教会二階リーダー部屋で毎月一回の頻度で開催されました。リーダー会では、活動の共有やリーダー同士の関わりも大事にして行ってきました。全国のY M C Aの活動に参加させてもらう機会があり、学んだことや感じたことをリーダー会で共有する場面も設けました。

4月に行われた新入生歓迎会では60名程の新入生を向かい入れました。ワイズメンズクラブの方に新入生と食べる夕飯を準備していただいたり盛岡Y M C Aのスタッフに新入生と交流をもってもらったりすることが出来ました。これまでも取り組んでいた向中野バザーでは、盛岡Y M Cの学童の子どもたちとミサンガづくりをして子どもたちとの関わりも大切にしました。そして、リーダー会として初めての取り組みとなった、岩手県立大学での大学祭参加。岩手県立大学の学生リーダーを中心にY M C Aを広く認知してもらうため話し合いを重ねて参加しました。当日は、豚汁を販売し「Y豚」と看板を掲げ多くのリーダーで学祭に参加しました。ここで出た利益は、2018年度も開催された場合リーダー会費やリーダー育成費としこれからのリーダー活動への資金としていきます。たくさんの方々に支えられていることに感謝しこれからのリーダー会活動につなげていきたいです。

またリーダー会で企画・運営しているサンデースクールは、2018年度は2017年度より活動日を1回増やし年7回行いました。内5回は仙北地区活動センターにて子どもたちと一緒に料理をし、他2回は向中野センターにて子どもたちと一緒に工作を行いました。2018年度のサンデースクールは、子どもたちが家に帰ってからも家族と一緒に料理や工作が出来るくらい料理や工作の楽しさを伝えるために短時間でどう関わっていくのかを大切に活動してきました。2019年度も2018年度同様、年7回開催で活動します。リーダー会としてサンデースクールに取り組んでいくことを目指します。

▼トピックス

- ・ 全国リーダー研修会や他のY M C Aに参加した時の活動報告ができた。
- ・ 岩手県立大学での大学祭への参加
- ・ 年7回のサンデースクール開催

▼1年間の歩み

- ・ 毎月一回 リーダー会開催
- ・ 4月16日 新入生歓迎会 4月29日・30日 リーダーキャンプ
- ・ 4・5・6・10・2・3月 サンデースクール（各月1回）



(リーダー会会長：小野寺保乃香)

5. アクションプラン評価

2017年度 盛岡YMCA アクションプラン評価表

評価はA～Eの5段階と日時的に行うことが出来ないもの(※)の6種類となっており、Aから順に評価が下がる

<本部事務局>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 労務管理体制を整備する。	退職金規定を作成し、引き当て積立金を計上する。	D	調査を行なった
	就業規則の整備 パート、無期契約、有期契約	D	調査を行なった
	諸規定を整備する。	D	調査を行なった
② タイムリーに会計の状況を把握できる体制をつくる。	対予算比較表を常議員会に合わせて作成する。	B	機能しつつある。
	小規模YMCAの財務評価基準を作成する。	D	調査を行なった。
	経営委員会を組織する。	E	実施できなかった
③ 中期3ヶ年計画を策定する。	総合計画委員会を組織する。	E	実施できなかった
④ 認定NPO法人を取得する準備を開始する。	維持会員の増強に努める	D	昨年より減っているが範囲が広がった。

<本町センター>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 地域貢献活動を積極的に行う	イチョウの枯葉清掃活動を行う	E	実施できなかった。
	本町通の雪かきを行う	E	実施していない。
	町内会活動に積極的に参加する	B	通常総会に出席した。
② 子ども110番に登録する	盛岡市担当窓口を調査する	A	調査し、登録した。
	対応マニュアルを把握する	A	マニュアルを把握し、本町センターバージョンを作成した。
	小学校・中学校・本町交番と連携をとる	C	必要に応じて連携を取れるようにより準備が必要。
③ 仁王小学校など対象校との関係の強化	定期的なコミュニケーションを取りに行く	B	必要に応じてコミュニケーションが取れている。
	スキーなどのボランティアを行う	E	体制的に今年度の実施は厳しい状況。
④ 児童館、活動センターとの連携の強化	YMCAニュースなどを配布する	B	仁王地区活動センターに配布している。
⑤ 施設管理の強化	計画的に予算化する	A	予算立てすることができた。
	清掃・清潔をマニュアル化する	B	マニュアル化できているが、評価基準ができていない。
⑥ 空いている時間の有効活用を調査する	プレスクールの調査を行う	E	取り組めていない。
	語学事業の調査を行う	C	次年度に向けて準備を進めている。

<前潟センター>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 前潟ファームの整備	予定地すべての開墾	E	目標範囲には届いていないため。
	子どもたちの意見を取り入れた品種を揃える	C	意見を反映させることができなかったため。
② お泊り会を行う	9月1週目の土日で行う	A	予定通り行えた。
	1日目最初に子ども(5・6年をメイン)主体のプログラムを取り入れる	E	5・6年生のスケジュールが合わず、予定が立てられなかった。
③ 地域の清掃活動を行う	学校行事による振り替え休日に子どもたちと行う	E	まだ行うことができているため。
	長期休み等子どもたちに参加を募り行う	E	今後行っていく予定。
④ 近隣学校等との関係強化を図る	ぶらいむりでの配布と情報交換を行う	C	児童送迎時やFaxでの月ごとの細かい情報交換ができているが、もっと連携をとれる可能性があるため。
	学校行事(スキーボランティアなど直接子どもたちと触れ合える行事)へ積極的に参加する	B	土淵小学校スキーボランティアへ参加した。
⑤ 学童行事の内容を工夫する	クリスマスやハロウィンのように、季節に合わせた行事を年に数回取り入れる。(河川敷のお花見・各節句のパーティ)	A	春、夏とお花見やスイカ割りなど季節に合わせた行事を行なったため。
	長期休みの行事を充実させる(近くへの遠足・全員でのゲーム大会)	A	消防署見学や、みちのくプロレス見学などに行った。
⑥ センターとしての活動の拡大	どのような習い事を子どもにしてほしいか等の保護者向けのアンケート調査	E	まだ行うことができているため。
	畑で収穫した野菜を使った「漬物教室」の実施(地域コミュニケーションを含め)	E	今後行っていく予定。
	午前中や日曜等のセンターの新たな利用方法の調査	E	アイディアはいくつか出ているが、まだ具体的に決まっていないため。

<向中野センター>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 向中野小学校との関係を強化する。	子どもに関する情報交換を密に行う。	B	できているが、もっと密に行える余地があるため。
	校庭の石拾いを行う。	A	運動会前に行った。
	ニュース発行の度に先生方に渡す。	A	学童ニュース、YMCAニュースを発行の度に行っているため。
	運動会等の行事で施設を開放する。	A	5月28日(日)に運動会が行われ、施設の開放を行った。
	不明事項などあればを逐一学校に相談、確認を行う。	C	何かあった際は確認にしているが、相談などまだできることがあるため。
② 学童の評価反省をしっかりと行う。	毎日の引き継ぎを行う。	B	行っている。長期休暇は最低限の引き継ぎしかできていないのが課題。
	定期的にスタッフミーティング(パートリーダー含む)を行う。	A	毎月、月に一度のペースで行っている。
③ 施設的环境を整える	各長期休暇終わりに大掃除を行う。(夏・冬)春は4月1日の開校に合わせて大掃除を行う。	C	今年度は春・夏のみ行ったため。
④ パザーを開催する。	他プログラムとの調整が効けば9月18日開催を検討。	A	9月10日に行う事で決定し、予定通り行った。当日は150名を超える来場者があり、開催史上もっともにぎわったパザーとなった。
⑤ 月に1度学童便りを発行し、関係施設に配る。	保護者だけでなく、向中野小学校、町内会にも配る。	C	町内会には配れていないため。
	町内会長と会う機会をつくる。	D	パザー案内の回覧板依頼などでお会いする機会はある。
⑥ 地域の町内会との関係を強化する。	町内会でともに行える活動、学童とも運動出来る活動の模索をする。	E	お会いした際に話をしているが、まだ具体的などところに至っていないため。
	⑦ スコアレ高校との関係を築く。	C	スコアレの先生と話をする機会を設ける。

<盛南センター>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 学童保育の充実	参加メンバーに寄り添った支援を徹底する	B	個々の状況に合わせての支援が行えてきている
	参加メンバーの様子を保護者の方へ丁寧に伝える	B	保護者との関係を築くことが出来てきている
	毎月1度お便りを発行し情報の発信を行う	D	毎月の発行は出来ていない
② 職員の質の向上	センター職員研修を定期的に行う(YMCA理解等)	E	スタッフミーティングは行っているが研修は行っていない
	業務日誌を通して各スタッフが状況を把握できるようにする	C	申し送り事項の共有を行っている
	報告・連絡・相談の体制をフローチャートに起こし活用する	D	事故・怪我発生時のフローチャートを作成共有した
③ 近隣との関係づくり	町内会等地域活動参加の可能性を探る	E	行えていない
	対象学校・近隣施設へお便りを配布し連携の可能性を探る	C	対象学校への配布にとどまっている

<ウエルネス> サッカースクール

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 会員増強を図る	担当者にアクションプランを作成してもらう	A	年度始めに作成していただいた。
	各ぶらいむ・たいむに対する無料体験を実施する	A	効果的に実施できている。
	効果的な広報を行う	C	広報はできているが結果につながっていない。
② 幼児教室の増設を検討する	日程や体制を具体的にシミュレーションする	E	取り組めていない。
③ 実技トレーニングを行う	年3回実施する	E	取り組めていない。
④ 全国・東日本サッカー大会への参加を検討する	日程を調査する	E	取り組めていない。
	予算をシミュレーションする	E	取り組めていない。
	認定証を作成する	C	次年度に向けて準備を進めている。
⑤ 質の向上を図る	学期ごとにニュースを発行する	E	取り組めていない。
	指導案の作成を行う	C	次年度より導入予定で準備中。
	マニュアルを作成する	E	全国の動向に合わせて作成中だが、完成しなかった。
	スタッフに日本サッカー協会公認D級指導員資格を取得してもらう	C	今年度は実施しない。
⑥ サッカー教室の体制を検討する	メンバー数や他の事業との兼ね合いを考えて決定する	B	次年度の体制をシミュレート済み。

<アクアティック>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 会員増強を図る	担当者にアクションプランを作成してもらう	A	年度始めに作成していただいた。
	各ぶらいむ・たいむに対する無料体験を実施する	E	取り組めていない。
	効果的な広報を行う	C	広報はできているが結果につながっていない。
② 幼児教室・成人プログラムの増設を検討する	日程の調査	C	調査を進めている段階。
	体制のシミュレーション	E	そこまで進んでいない。
③ スタッフトレーニングの実施	矢巾町営プールなどで年6回実施	D	予定回数には達していないが、実施できている。
④ 質の向上を図る	指導案の作成を行う	C	次年度より導入予定で準備中。
	マニュアルを作成する	C	作成途中。
	学期ごとにニュースを発行する	E	取り組めていない。

<ジムナスティック>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① キッズコーディネーションについて	新規開講予算のシミュレーションを行う	A	通常プログラムとして既に実施している。
	実施場所を調査する	A	仁王地区活動センターで決定。
	他YMCAを調査する	A	横浜YMCAを中心に調査済み。
	パイロットプログラムを実施する	A	夏季短期教室を実施。
② 新規ウエルネスプログラムを調査する	地域社会のニーズを感じとる	B	他の団体の体育教室や体操教室の状況を調査済み。
	他YMCA及び他団体を調査する	B	調査済み。

<野外活動>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 会員管理を徹底する	個人調査票の管理を徹底する	B	管理できている。
	名簿を作成し、スタッフ間で共有する	B	スプレッドシートで共有できている。
	緊急連絡名簿を作成する	B	作成しそれぞれで把握できている。
② 保護者とのコミュニケーションを図る	出席確認票をより有効に使う	B	昨年度同様に活用できている。
	年度末にアンケートを行う	A	次年度に向けてのアンケート実施済み。
③ ファミリープログラムの調査	他のYMCA及び他団体を調査する	B	十分な調査を行えた。今後も継続。
	パイロットプログラムとして年2回実施する	B	6月・10月に実施。
④ 幼児プログラムの再検討	他のYMCA及び他団体を調査する	B	十分な調査を行えた。今後も継続。
	パイロットプログラムを年3回行う	B	6月・9月に実施。
⑤ 備品衛生管理の徹底	担当者を設置し管理を徹底する	B	担当を設置し管理できている。
⑥ 広報をより効果的に行う	予算をつける	B	十分な予算をつけることができた。
	アキュートなど情報誌の記事掲載調査、検討	B	アキュートに掲載していただいたが効果は見られなかった。
	他YMCAへの調査	C	調査しているがしまかれていない。
⑦ 活動ニュースを発行する	学期ごとに発行する	E	取り組めていない。
⑧ 野外担当者会に出席する	伊藤が出席する	E	今年度は出席しないこととした。
⑨ 各ぶらいむ・たいむからの参加者増強を図る	センター長と連携して広報を行っていく	C	各センターにチラシを掲示してもらっているが、大きな効果に
	年3回実施する	E	取り組めていない。
⑩ 実技トレーニングを行う	課題と目的をはっきりと持つ	E	取り組めていない。
	他YMCA及び他団体を調査する	B	十分な調査を行えた。今後も継続。
⑪ シルバー野外活動の調査	年1回実施する	B	11月に実施。

<季節キャンプ>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① スタッフ研修を行う	夏、冬に1回ずつ行う。	C	冬にディレクタートレーニングを行った。
	各センターよりサマーキャンプ、ウィンターキャンプにスタッフを派遣してもらう。	A	スタッフを計画的に派遣していただいた。
② 中高生キャンプを実施する	ユース委員会と連携して行う。	B	連携し実施できたが、予算人数には達成しなかった。
③ 安全管理の徹底	下見を必ず行う	A	全てのキャンプで十分に行えた。
	万が一のために事故発生時の連絡体制を作成し共有する	A	昨年度同様の連絡体制を使用した。
④ 全国サマーキャンプTシャツデザインにチャレンジする	スタッフ、リーダーでチャレンジする	A	チャレンジしたが、今年も採用されなかった。

<チャイルドケア事業>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
①各学童間での連携や共有の評価反省の機会を検討する。	各学童担当スタッフによるミーティング開催を検討する。	B	10月以降開催できているため。
②滝沢・矢巾地区での学童保育事業の可能性を探る。	滝沢市役所に定期的に話を聞きに行き、今後の動向をすばやく知れる様にする。	B	5月23日に市役所に行き、現状と今後について話を聞きに行った。またH31年4月開所の学童の公募が出たため、申込み申請を行った。
	こちらからも滝沢市に発信が出来るよう、本当に滝沢に学童が必要なのか等、独自に調査等を行う。	C	人口や学童施設などの調査は行っているが、発信まで至っていないため。
	矢巾地区の人口の動向などの調査を行う。	B	5月23日矢巾町役場に行き話を聞きに行ったため。
③各センターの学童で、保護者との関係をしっかりと築いていく。	各センターの学童のニュースを定期的に発行し配る。	B	各センターで発行次第配布を行っているため。
	お迎えの際の保護者とのコミュニケーション、報告(ケガやその日あったこと等)を細かく行う。	B	おおよその報告、コミュニケーションを取ることではできているため。
④外に向けた発信を行っていく。	学童のニュースを各地域の対象学校、町内会などに配る。	C	センターによって配れている所、配れていないところがあるため。
⑤各センターの学童で避難訓練を定期的に行う。	2017年度中に各学童で2回行う。	C	各学童で概ね2回行う事ができたが、1回の所もあったため。
⑥学童からYMCAの他のプログラムへの参加者を増やす。	ウェルネス事業と連携し、無料体験実施など、実際に他プログラムを体験してもらう機会をつくる。	B	サッカー体験会をウェルネス事業で計画・実行してもらい、その参加からの入会もあったため。
⑦放課後児童支援員の資格認定の研修に各センターからスタッフを派遣し資格をとる。	各センターより、また資格を取得していないスタッフを研修に派遣する。	A	現在、前浜センター、向中野センターより一名ずつ派遣し、両名ともに取得した。
⑧児童デイサービスの可能性を探る。	児童デイサービスの調査・検討を行う。	E	行っていないため。
⑨今後保育園開設の可能性を検討する。	保育園に関する調査を行う。必要性、地域、開設に携わって等。	E	行っていないため。
	パイロットプログラムとしてプレスクールを行う。	E	行っていないため。

<東日本大震災被災地復興支援活動>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 2021年まで活動が継続できるような仕組みを再構築する。	各種助成金の申請や、募金の呼びかけを行い、資金を調達する。	B	カメイ財団から250,000円の助成が決定
	経費の節減を図る	B	宮古野外活動センターを利用し、交通費を削減
② 宮古での活動を通して、保護者、地域との交流を深める。	保護者も参加できるプログラムを企画し、実行する。	A	3月18日の親子サッカー大会を開催することができた。
③ 全国YMCAと協働して福島への支援を行う。	福島の実状を学ぶイベントを開催する。	C	南相馬、福島市のNPO等と関係を構築できた。

<国際協力事業>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 街頭募金を開催する。	11月23日に行う。	A	予定通り行った。
②大通り近辺以外での街頭募金活動の可能性を探る。	スーパー前等で行えないか調査、交渉を行う。その他、TUTAYAやスポーツショップなど大きな店舗に掛け合ってみる。	D	いくつか交渉してみたが、実施は厳しいとのこと。今後あらたな可能性を探る必要がある。
	③期間を定めた国際協力募金を継続的に行う。	11月1日に会員に配りだせる様にする。3月31日まで。	B
④海外ワークキャンプにリーダーを派遣する。	2名の派遣を目指す。	B	2月にネパールヘリリーダー2名の派遣をした。
	派遣実施に伴いワイスなどの協力を得ながら資金面での援助もできるようにする。	E	ネパールワークキャンプがすでに国際協力募金からの支援で参加費が減免されていたため、資金面での援助の声がけ等は行わなかった。

<チャリティーラン>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
① 第1回のチャリティーランを成功させる	他YMCAの担当スタッフにわからないことはすぐに聞く。	A	多くの情報、アドバイスを頂戴できた。
	実行委員会の方達と協力し、手間と時間をしっかりとかける。	A	小まめに実行委員会を開催した。多くの協力をいただいた。
	情報を効果的に発信していく。	B	できるだけ印象に残るように発信できている。
	たくさんの人たちに知ってもらい、参加してもらう。	B	303名の参加。
	たくさんメディアに取り上げてもらえるようにする。	B	盛岡タイムスで掲載。
② 全国リーダー研修会にリーダーを派遣する	大学との連携をより深め、リーダーの数を増やす	B	より関係を深め、随時各学年20名を目標に。
	毎年2名の全国リーダー研修会への派遣をする	A	広島へ派遣した。

<ユース委員会>

アクションプラン	行動計画(細分化されたもの)	評価	評価理由
①中高生のいじめに関わる、課題や問題に対して行動を起こしていく。	1、2ヵ月に一回のペースで委員会を行い、委員で人、物、お金を集められるアイデアを出し合い、プログラムとして行動にしていける。	A	現在のところ1か月〜2か月に一回のペースで委員会を行っているため。
	ピンクシャツデーと連動し、いじめに対してのプログラムを検討していく。	B	2月24日にピンクシャツデー特別講演会という形で7名の参加者を迎え実施できた。
	ウェルネス事業と連携をとり中高生キャンプの開催を検討する。	A	7月28日〜30日に2泊3日のキャンプを岩手山焼走り国際交流村で行ったため。
②中高生の組織との連携を探る。	宮古ベースの高校生たちと連携を取れないか模索する。	E	行っていない。
	盛岡市の中高生組織の調査をする。	E	行っていない。
	盛岡YMCAで今後中高生組織を立ち上げていく準備、調査を行う。	E	行っていない。

6. 活動参加者数

2017年度 活動報告				
A.理事会・常議員会・会員総会				
月日	行事名	場所	出席	主な議題
4/27	常議員会・理事会	岩手情報交流センター5階 ミーティングルーム	15	役員改選 会員総会
5/20	会員総会	岩手情報交流センター5階団体活動室③	51	2016年事業報告2017年事業計画、予算役員改選
5/21	常議員会・理事会	岩手情報交流センター6階団体活動室③	45	常議員会議長、副議長の選任について
8/24	常議員会・理事会	岩手情報交流センター5階 ミーティングルーム	13	会計報告・事業報告・委員会報告
11/30	常議員会・理事会	岩手情報交流センター5階 ミーティングルーム	17	会計・事業報告・委員会報告 次年度事業計画
1/25	常議員会・理事会	岩手情報交流センター5階 ミーティングルーム	14	次年度事業計画案、就業規則
2/22	常議員会・理事会	岩手情報交流センター5階 ミーティングルーム	11	会員総会準備委員会・次年度予算
B.チャリティーラン委員会				
月日	行事名	場所	出席	主な議題
4/9	第6回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1	13	トロフィーメダルのデザインなど
5/21	第7回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1	13	申し込み状況について、雨天時についてなど
7/9	第8回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1	10	申し込み状況についてなど
8/20	第9回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1	10	申し込み状況について、準備スケジュールについてなど
9/2	第10回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室4	10	最終エントリー確定について、予算についてなど
9/10	第11回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室4	13	当日役割について、当日パンフレットについてなど
10/15	第12回実行委員会	岩手県立大学アイーナキャンパス学習室4	13	振り取り
C.ユース委員会				
月日	行事名	場所	出席	主な議題
5/21	第4回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	8	中高生キャンプ先候補、キャンプ参加費減免について
6/11	第5回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	7	中高生キャンプ募集について、寄付金のお願ひ先
7/1	第6回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	6	寄付金、中高生キャンプ募集状況の報告、今後について
8/27	第7回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	9	中高生キャンプの報告、今後について
9/24	第8回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	8	中高生キャンプ報告書について、具体的な活動案について
10/28	第9回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	8	ピンクシャツデーに向けた講演会について
11/25	第10回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	6	講演会のテーマ、具体的内容について
1/20	第11回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	5	講演会について（会場・参加者集め等）
2/10	第12回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	6	講演会現況確認、当日までの対応と担当について
3/4	第13回盛岡YMCAユース委員会	日本基督教団 内丸教会	6	講演会の振り返り、今後の活動について
D.職員研修				
月日	行事名	場所	出席	内容
4/9	職員礼拝	日本キリスト教団内丸教会	12	新年度礼拝
6/19	職員礼拝	日本キリスト教団内丸教会	13	メッセージ 茶話会
11/6	職員礼拝	日本キリスト教団内丸教会	12	メッセージ 家村報告
12/11	職員礼拝・クリスマス	日本キリスト教団内丸教会	13	メッセージ 伊藤報告
3/5	職員礼拝	日本基督教団内丸教会	13	メッセージ 武田・向平報告

E. 特別活動						
月日	行事名	場所	出席	内容		
8/10	前潟センター消防署見学	盛岡中央消防署	24	盛岡中央消防署内見学		
8/20	盛岡YMCA学童保育 カロム大会	向中野センター	16	カロム大会 岩手県大会		
9月2-3日	前潟学童 1泊お泊まり会	前潟センター	39	ぶらいむ・たいむ前潟校参加者による前潟センターでのお泊り		
9/10	向中野センター バザー	向中野センター	150	地域に向けてのチャリティーバザー		
9/23	第1回盛岡YMCA国際チャリティ	岩手県立大学	303	参加者全員で障がいのある子どもたちを支援することの大切さを分かち合う		
10/14	ポジティブネット街頭募金	盛岡市大通り	6	盛岡市内クロスステラス向いに中高生のための街頭募金活動		
11/23	国際協力街頭募金	開運橋、大通り、肴町等	52	盛岡市内大通りでの街頭募金活動		
2/24	ピンクシャッター特別講演会「今を楽しむには」	仁王地区活動センター	7	12歳から18歳を対象にタグラグビーを通じた体験形式の講演会		
F. リーダートレーニング						
月日	講師・行事名	場所	出席	内容		
4/16	新入生歓迎会	日本キリスト教団内丸教会	73	ウォークラリー、夕食会		
4/29-30	新入生歓迎1泊キャンプ	国立岩手山青少年	59	野外料理・キャンプファイヤー		
6/7	伊藤真太郎	アイーナ団体活動室2	35	ロープワーク		
6/14	濱塚有史	アイーナ団体活動室2	45	YMCA理解		
6/22	小川嘉文	アイーナ団体活動室2	39	人間関係トレーニング		
6/29	家村知佳	アイーナ団体活動室2	48	発達障がい児理解		
7/5	浅沼慧	アイーナ団体活動室2	32	グループワーク		
7/8	東野真理子	アイーナ団体活動室2	23	食中毒理解		
7/9	中原真澄	日本キリスト教団内丸教会	34	キリスト教理解		
7/9	盛岡市消防局	日本キリスト教団内丸教会	47	救急法		
7/12	伊藤真太郎	アイーナ団体活動室2	52	安全理解		
11/9	小川嘉文	日本キリスト教団内丸教会	25	対象理解		
11/16	浅沼慧	日本キリスト教団内丸教会	24	グループワーク		
11/30	家村知佳	日本キリスト教団内丸教会	18	発達障がい		
12/7	東森聡	日本キリスト教団内丸教会	24	応急処置		
12/14	伊藤真太郎	日本キリスト教団内丸教会	26	スキー技術&指導法		
12/16	中原真澄	日本キリスト教団内丸教会	21	リーダー理解		
12/21	伊藤真太郎	日本キリスト教団内丸教会	28	安全理解		
12/23-24	伊藤真太郎	八幡平パノラマスキー場	22	1泊技術トレーニング		
G. 野外活動（アドベンチャークラブ）						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
4/23	電車で行く花巻空港探検	花巻空港	22	18	2	
5/28	レッツアウトドアクッキング♪	外山森林公園	12	13	2	
6/24-25	バンガローに泊まろう♪	田沢湖キャンプ場	21	17	2	
8/20	目指せ源流！ 沢登りに行こう♪	区界・閉伊川	13	6	1	
9/16-18	2泊3日 アウトドア満喫キャンプ	岩手山青少年交流の家	13	10	2	
10/29	焼き芋！ 芋煮！ 秋を感じよう♪	外山森林公園	21	12	2	
11/26	馬と一緒に遊んじゃおう♪	馬っこパーク	21	16	2	
1/13,14	☆日帰りスキー教室☆	安比高原スキー場	10	2	2	
1/20,21	☆日帰りスキー教室☆	八幡平リゾートパノラマスキー場	21	7	3	
1/28	餅つき&雪遊びに行こう！	国立岩手山青少年の家	13	8	1	
2/24-25	ゆきフェスティバルキャンプ	安比高原スキー場	16	5	1	
2/18	ワカサギ釣りに行こう！	岩洞湖	31	4	2	

H.野外活動(アドベンチャークラブ特別活動)						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
6/10	森の幼稚園(こどもの森でかけよう)	いわて子どもの森	6	4	1	
7/23	にこにこファミリークラブ	外山森林公園				豪雨により中止
9/9	森の幼稚園(動物園にかけよう)	動物公園				参加者不足により中止
10/15	にこにこファミリークラブ	外山森林公園	9	2	2	
11/12	いきいきクラブ	高松の池	6	6	2	
2/3	森の幼稚園	安比公園				中止
I.野外活動(季節キャンプ)						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
7/16~17	わんぱくキャンプ	盛岡市都南つどの森	34	12	2	
7/28~28	中学生キャンプ	岩手山焼走りキャンプ場	6	1	4	
7/31~8/3	サッカーキャンプ	岩手山青少年交流の家	23	2	2	
8/4~5	森の大自然満喫キャンプ	外山森林公園	29	8	2	
8/6~9	島のわくわくキャンプ	休暇村気仙沼大島	28	8	2	
8/10~12	星空満天キャンプ	焼走り国際交流村	23	12	2	
12/26~12/29	エンジョイスキーキャンプ	八幡平リゾートパノラマスキー場	23	5	2	
12/27~12/29	ジュニアスキーキャンプ	八幡平リゾートパノラマスキー場	31	3	1	
1/6~1/8	ダイナミックスキーキャンプ	安比高原スキー場	20	7	1	
3/21~3/23	スプリングスキーキャンプ	安比高原スキー場	9	3	1	
J.サッカー大会						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
7/2	ファミリーサッカーフェスティバル	仁王小学校校庭	42	19	8	
11/3	チャンピオンズカップ	岩手県立大学グラウンド	65	16	9	
3/10	フットサル大会	滝沢市東部体育館	39	13	7	
K.短期集中クラス						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
8/1.2.3	体育教室	仁王地区活動センター	6	0	2	
L.サンディスクール						
月日	行事名	場所	参加者数	リーダー	スタッフ	備考
4/9	オリジナル焼印どら焼きを作ろう!	仙北地区活動センター	17	11	2	
5/21	オリジナルクッキーメロンパンを作ろう♪	仙北地区活動センター	17	29	2	
6/18	転んでも転んでも起き上がるおきがりこぼしを作	盛岡YMCA向中野センター	22	11	4	
10/1	ステンドグラスクッキーを作ろう!	仙北地区活動センター	25	12	2	
11/19	オリジナルアロマキャンドルを作ろう♪	盛岡YMCA向中野センター	17	10	2	
2/18	チュロスを作ろう♪	仙北地区活動センター	15	11	1	
3/25	国際料理タコスを作ろう♪	仙北地区活動センター	12	3	1	

M 宮古ボランティアセンター						
① 宮古を愛する子ども達の育成事業（野外活動） アドベンチャー、サマーキャンプ						
月日	行事名	場所	参加者数	ボランティア	スタッフ	備考
5月14日	NO.1 カレー決定戦	宮古市野外活動センター	9	18	2	
6月11日	棒でパン！？	宮古市野外活動センター	14	7	2	
8月5日～7日	思いっきりサマーキャンプ	秋田県仙北市 思い出の湯分校	31	8	3	
10月8日	焼き芋作り	宮古市野外活動センター	20	9	2	
10月28日	ヤマメの採卵体験	宮古市和井内養鱒場	5	2	2	
11月12日	おでん作り	宮古市野外活動センター				サーモンマラソン大会と重なり中止
12月3日	クリスマスリース作り	宮古市野外活動センター	17	9	2	
2月4日	飛揚げ	宮古市野外活動センター	17	8	2	
② 宮古を愛する子ども達の育成事業（サッカースクール）						
月日	行事名	場所	参加者数	ボランティア	スタッフ	備考
4月～7月	サッカー 1学期	宮古小グラウンド	26	2	2	参加者数は、登録人数
9月～12月	サッカー 2学期	宮古小グラウンド	32	2	2	参加者数は、登録人数
1月～3月	サッカー 3学期	宮古小グラウンド	30	2	2	参加者数は、登録人数
11月3日	チャンピオンズカップ	岩手県立大学サッカー場	20	2	2	
3月17日～18日	サッカースクールお泊まり会	陸中海岸青少年自然の家	26	6	2	

N.プログラム募集状況表						
プログラム名	a 予算人数	b 前年度人数3月末	c 実数	c/a	c-a	c-b
1.本部						
維持会費	100	103	88	88%	△ 12	△ 15
寄付金	40	38	19	48%	△ 21	△ 19
2.体育						
土淵サッカー (前潟)	8	6	10	125%	2	4
盛北サッカー (前潟)	10	10	9	90%	△ 1	△ 1
高松サッカー (本町)	6	1	3	50%	△ 3	2
篠木サッカー (本町)	21	21	16	76%	△ 5	△ 5
本町サッカー (向中野)	45	34	27	60%	△ 18	△ 7
盛南サッカー (向中野)	6	5	6	100%	0	1
向中野サッカー (向中野)	18	12	21	117%	3	9
カースクール 計	114	89	92	81%	△ 22	3
ベスト・キッズ (本町)	30	27	32	107%	2	5
サッカークラブ 計	144	116	124	86%	△ 20	8
火曜 水泳 (本町)	28	19	21	75%	△ 7	2
水曜 水泳 (本町)	55	45	39	71%	△ 16	△ 6
月曜 水泳 (向中野)	25	17	31	124%	6	14
金曜 水泳 (向中野)	40	33	35	88%	△ 5	2
水泳 計	148	114	126	85%	△ 22	12
ファミリーサッカーフェスティバル	40	31	42	105%	2	11
チャンピオンズカップ	60	90	85	142%	25	△ 5
フットサル大会	40	40	39	98%	△ 1	△ 1
3.野外活動						
アド4月活動	30	28	22	73%	△ 8	△ 6
アド5月活動	30	35	12	40%	△ 18	△ 23
アド6月活動 (1泊)	30	0	21	70%	△ 9	21
アド8月活動	30	26	13	43%	△ 17	△ 13
アド9月活動 (1泊)	30	23	13	43%	△ 17	△ 10
アド10月活動	30	33	21	70%	△ 9	△ 12
アド11月活動	30	29	21	70%	△ 9	△ 8
アド1月活動 (日帰りスキー)	30	16	10	33%	△ 20	△ 6
アド1月活動 (日帰りスキー)	30	14	21	70%	△ 9	7
アド1月活動 (餅つき)	0	0	13			
アド2月活動 (1泊)	30	18	16	53%	△ 14	△ 2
アド2月活動 (ワカサギ)	0	0	31			
森のようちえん6月活動	10	3	6	60%	△ 4	3
にこにこファミリークラブ6月	5	0	0	0%	△ 5	0
森のようちえん (動物園)	10	3	0	0%	△ 10	△ 3
いきいきクラブ	10	0	6	60%	△ 4	6
森のようちえん9月活動	10	0	0	0%	△ 10	0
にこにこファミリークラブ10月	5	0	9	180%	4	9
森のようちえん2月活動	10	0	0	0%	△ 10	0
わんぱくキャンプ	35	30	34	97%	△ 1	4
中高生キャンプ	10	0	6	60%	△ 4	6
サッカーキャンプ	20	22	23	115%	3	1
星空満天キャンプ	35	31	23	66%	△ 12	△ 8
森の大自然満喫キャンプ	25	24	29	116%	4	5
島のわくわくキャンプ	25	24	28	112%	3	4
エンジョイスキーキャンプ	30	34	23	77%	△ 7	△ 11
ジュニアスキーキャンプ	30	30	31	103%	1	1
ダイナミックスキーキャンプ	20	18	20	100%	0	2
スプリングスキーキャンプ	20	15	9	45%	△ 11	△ 6
野外 計	610	456	461	76%	△ 149	5
4.チャイルドケア						
学童保育 (本町校)	50	45	42	84%	△ 8	△ 3
学童保育 (前潟校)	45	33	42	93%	△ 3	9
学童保育 (向中野校)	102	97	92	90%	△ 10	△ 5
学童保育 (盛南校)	15	0	15	100%	0	15
チャイルドケア 計	212	175	191	90%	△ 21	16

7. 2017 年度 盛岡 YMCA の運動を担った皆さん

(敬称略・順不同)

<理事会>

理事長：魚住英昭 副理事長：深澤秀男 理事：石渡隆司 及川忠人 角谷晋次 水田賢次 濱塚有史 監事：重石桂司
山口貴伸

<常議員会>

議長：井上修三 副議長：大関靖二 常議員：石渡隆司 魚住英昭 及川忠人 角谷晋次 長岡正彦 中原眞澄
名古屋恒彦 深澤秀男 水田賢次 濱塚有史 重石桂司 山口貴伸

<NPO 法人理事会>

理事長：魚住英昭 副理事長：深澤秀男 理事：石渡隆司 井上修三 及川忠人 大関靖二 長岡正彦 水田賢次
濱塚有史 監事：重石桂司 山口貴伸

<委員会>

(チャリティーラン実行委員会)

委員長：井上修三(フジクリーン岩手株式会社) 委員：阿部孝司(社会福祉法人カナンの園盛岡支援部長兼所長・サービス
管理責任者) 伊藤穂南(ボランティア - 盛岡大学 3 年) 伊藤陸(ボランティア - 岩手県立大学 3 年)
大関靖二(もりおかワイズメンズクラブ) 小野寺保乃香(ボランティア - 盛岡大学 3 年)
菅野道生(岩手県立大学社会福祉学部専任講師) 佐藤真名(社会福祉法人カナンの園 常勤理事事務局長)
末廣光揮(Rashiku 株式会社代表取締役) 長岡正彦(ワイズメンズクラブ北東部部長) 福田俊雄(有限会社彩貴代表取締役)
藤原清史(盛岡杉生園 サービス管理者) 松平大知(ボランティア - 岩手県立大学 3 年) 担当職員：伊藤眞太郎 東森聡

(コース委員会)

委員長：長岡正彦(株式会社シンエイシステム) 委員：中原陽子(日本基督教団内丸教会副牧師)
村上章子(元盛岡スコレ高校相談室勤務) 名古屋恒彦(岩手大学教授) 古澤伸(行政書士 S・K 古澤法律事務所)
千葉伸行(盛岡市議会議員) 鬼柳琴(ボランティア - 岩手看護短大 3 年) 菊池望(ボランティア - 岩手大学 3 年)
担当職員：小川嘉文 家村知佳

<維持会員>

浅沼慧 阿部深雪 飯島隆輔 家村知佳 池田二郎 石崎真珠 石渡隆司 一戸貞文 伊藤克見 伊藤真一郎
伊藤真太郎 伊藤信彦 伊藤愛美 伊藤みどり 井上浩太郎 井上修三 井上優子 今松桂子 上中優奈 魚住英昭
魚住恵 鵜丹谷三千代 遠藤昌樹 及川茂夫 及川孝虎 大関靖二 大塚英彦 小笠原真紀子 岡田虎治 尾形裕一郎
小川明佑 小川嘉文 押切梓 重石桂司 オマノルビコ 角谷晋次 川坂保宏 神田橋慧一 北田アユ子 木田泰之
工藤あさひ 熊谷一郎 熊谷力實 熊谷大樹 熊谷太 小林茂元 今野健男 今野聖子 齊藤恒夫 齋藤之彦 澤田鉄平
清水弘一 清水治彦 杉田弘美 杉田未来 高瀬稔彦 高橋俊樹 高橋奈菜 高橋恵翔 高橋簾翔 滝川佐波子
竹崎公貴 武田理恵子 田村治之 張仁恵 長岡和義 長岡正彦 中島敬泰 中村圭一 中村涉 名古屋恒彦 南原良哉
花田瞳 馬場一郎 日本キリスト教団林間つきみ野教会 濱塚恵太 濱塚秋二 濱塚直樹 濱塚牧人 濱塚真美
濱塚有史 濱塚れい子 早坂春希 林辰也 晴山浩輔 東森聡 人見晃弘 深澤多紀子 深澤秀男 古澤伸 増田隆
松尾聡子 水田賢次 水野賜夫 光永尚生 宮崎幸雄 村田深雪 守下昌輝 森山日菜乃 森山幹大 吉崎陽

<ユース・ボランティアリーダー>

会長：小野寺保乃香 副会長：渡辺芽生 東彩由海

(岩手大学)

阿部妃夏 伊藤新太 岩井諒太郎 上野圭介 宇佐美簾 大川義敬 大森亮太 小野寺健太 小山田純 上平奈奈
川村太一郎 木明悠人 菊地由樹 木村真央 工藤千夏 久保皓平 熊谷天翔 駒井美咲 今野直人 佐久間健
笹川大地 佐々木真輔 佐々木和香 佐々木史江 佐々木雄大 佐藤凌雅 下川原優 菅原菜 鈴木修斗 鈴木大陽
鈴木凜奈 須田陽平 武田琴楓 竹田涼香 田中芳樹 玉木穂香 千葉遥菜 千葉悠太 飛内若菜 豊田聖 野沢有紀乃
長谷川雅己 花坂茉椰 吹田ひより 藤嶋咲希 藤原大希 古谷京香 前田隼輔 松橋茉里奈 松原夏鈴 松原由奈
宮澤秋彦 向井陽佑 安垣史織 吉田莉那 東彩由海 齊藤七彩 嵯峨直樹 二永芽生 菊池望

(岩手県立大学)(岩手県立短期大学)

阿部瑞生 大河原あみ 大野玲佳 神作真衣 唐津祥 菅野このみ 齋藤花梨 齊藤優太郎 白木宏海 住吉可帆
鷹羽沙希 立花葵 田中希 田中理沙 田村陸 中山慧 成田愛可 畠山のそみ 濱田耕大 藤村玲 本間千尋
村瀬友花 岡田稜平 早坂知美 星亮太郎 湯澤直希 伊藤陸 工藤奈緒 松平大知 山田夏実

(盛岡大学)

小山田航輔 小岩壯太 佐々木優衣 佐藤春希 諏江はるか 菅原愛 高田彩加 滝又茜里 多田伊作 館道瑛
千葉かなえ 千葉文彦 野頭照裕 林田章江 福士瑞貴 屋比久海都山本誠也 横沢響 四日市七生 渥美百恵
鬼柳侑可 小山田詩織 簡沙羅 菊池みなみ 伊藤穂南 小野寺保乃香 昆由理絵 佐藤妃奈 鈴木伶奈 槻山瞳
渡辺芽生

(岩手県立看護短期大学)

鬼柳琴

(大原学園盛岡校)

小野誉史

(社会人)

末廣光揮 鈴木貴大 三田庸平

<盛岡ワイズメンズクラブ>

会長：井上修三 副会長：三田庸平 会計：大関靖二 井上優子 及川忠人 千葉信彦 長岡正彦 中原真澄 根内純
古澤伸 山口貴伸 魚住英昭 村上章子 濱塚有史 担当主事：小川嘉文

<ご寄付>

(盛岡YMCA に対するご寄付)

石渡隆司 伊藤克見 伊藤眞一郎 伊藤みどり 今松桂子 遠藤昌樹 及川茂夫 角谷晋次 工藤悦子 熊谷一郎
熊谷力實 熊谷大樹 熊谷太 清水弘一 杉田弘美 杉田未来 張仁恵 南原良哉 花田瞳 馬場一郎 濱塚恵太
濱塚秋二 濱塚直樹 濱塚牧人 濱塚眞美 濱塚れい子 濱塚有史 早坂春希 晴山浩輔 人見晃弘 増田隆 水田賢次
光永尚生 社会福祉法人イエス団友愛幼稚園

(中高生支援基金)

相澤清子 赤松洋祐 家村知佳 及川忠人 小川嘉文 潮田牧子 潮田祐 長岡正彦 中原真澄 中原陽子 名古屋恒彦
濱塚有史 古澤伸 村上章子 山口貴伸 山村堯樹

(震災復興支援募金)

村田深雪 西宮ワイズメンズクラブ 3.11 チャリティコンサート実行委員会 大阪 YMCA インターナショナルスクール

(リーダー育成支援募金)

日本基督教団内丸教会 魚住恵 もりおかワイズメンズクラブ

(国際協力募金)

家村知佳 池田二郎 石崎真珠 伊藤克見 伊藤真太郎 魚住英昭 遠藤昌樹 上中優奈 鵜丹谷三千代 小笠原遥紀
尾形裕一郎 小川明佑 小川嘉文 大関靖二 小島歩夢 小島瑞來 熊谷力實 熊谷太 齊藤優太 佐藤想純 清水弘一
杉田弘美 杉田未来 高橋きおら 滝川佐波子 長岡和義 濱塚れい子 早坂春希 晴山浩輔 光永尚生 守下昌輝
フジクリーン岩手株式会社

(第1回盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2017)

■ 参加チーム

Team tamutamu 東北電力盛岡支部 どすこい HAMATSUKAKE ヒソプジャパン シンエイシステム駅伝部
カナン牧場ランニングクラブ チーム杉生園 Team Cello リコージャパン ぱびぼんしっくす チーム井上
もりおかワイズメンズクラブ もう秋ですね 盛岡 YMCA チーム向中野 B 盛岡 YMCA ベスト・キッズ U9
盛岡 YMCA ベストキッズ U-12 盛岡 YMCA チーム向中野 A YMCA 畑いじり隊 ムックと愉快的な仲間たち
轟速ザ・ホンチョー ASAKO チームフジクリーン岩手

■ ご寄付（法人）

株式会社あさ開 盛岡ニッタン株式会社 北岩手環境保全 株式会社興和電設 有限会社渥美工務店
サン不動産・有限会社 オートグラス岩手株式会社 文化企業株式会社 有限会社みかわや 株式会社シンエイシステム
有限会社山内建築設計 株式会社理水興行 有限会社岩手浄化槽管理センター 株式会社林風舎 株式会社阿部製作所
株式会社熊谷砂利店 株式会社ハウス 21 株式会社こぐま社 成和自動車板金塗装工業有限会社
医療法人紫波中央眼科 株式会社盛岡グラスファイバー工業 一般財団法人みちのく愛隣協会東八幡平病院
高橋観光有限会社 東北ミサワホーム株式会社 Rashiku 株式会社

■ チームスポンサー

有限会社武田工務店 有限会社横手板金工業 株式会社三田商会 株式会社金澤鋼業 株式会社関商会
辻・本郷税理士事務所 高瀬稔彦

■ ご寄付（個人）

名古屋恒彦 人見晃彦 花田瞳 熊谷力實 濱塚秋二 遠藤昌樹 橋野満之 伊藤真一郎 伊藤みどり 清水弘一

伊藤克見 高瀬稔彦 伊藤眞太郎 伊藤愛美 菅原唯 角谷晋次 及川茂夫

■ 物品寄付

株式会社岩手ホテルアンドリゾート 八幡平リゾート株式会社 グルージャ盛岡 みちのくプロレス 及源铸造株式会社
リコージャパン株式会社 株式会社楽天野球団 岩手鶯宿温泉長栄館 株式会社ミカサ スーパースポーツゼビオ
株式会社こぐま社 株式会社カヴァーロ

■ ブース提供、ステージ協力を頂いた団体・企業

まちなかドッグ CAN 株式会社サンメディカル SEVEN FOREST PUROJECT 徳田慎太郎・真理子
岩手県立大学ア・カペラサークル Jelly Beans 岩手県立大学バルーンアートサークル
岩手県立大学手話サークル「ひだまり」岩手県立大学化粧ボランティアサークル「KIPU*LABO」
岩手県立大学ダブルダッチサークル ROPE A DOPE 岩手県立大学さんさ踊り実行委員会

<職員組織>

総主事：濱塚有史

(本部事務局)

主任主事 浅沼慧 藤澤愛 山本智子 乙部智恵子

(本町センター)

所長：伊藤眞太郎(ウエルネス事業部主任主事) スタッフ：家村知佳 中村圭一 指導員：岩城恵 蛭原斗和 工藤悦子
熊谷天翔 杉沢恵子 鈴木克実 高橋千鶴子 土井美菜子 富岡あき子 林京子 藤島正悟 松井美樹 宮澤秋彦
運転手：村上邦昭 村上達司

(前潟センター)

所長：東森聡 スタッフ：小笠原真紀子 向平悟 指導員：天坂くみ子 小岩壮太 齊藤洋子 庄司歩美 鈴木凜奈
立花尽 千田汐里 二永芽生

(向中野センター)

所長：小川嘉文(チャイルドケア事業部主任主事) スタッフ：尾形裕一郎 武田悠 指導員：伊藤明子 岩淵浩敬
加倉慎也 兼平芙美子 菊池尚 菊池敏子 下川原優 菅原歩 高橋美月 田山ゆみ 畠山博憲 早坂知美

(盛南センター)

所長：浅沼慧(本部事務局主任主事) スタッフ：中村涉 指導員：東彩由海 石川麻妃 大塚史明 大塚朗美 川村真也
熊谷菜々子 相馬みなみ 向井田結良 吉田莉那

(宮古ボランティアセンター) 濱塚有史 向平悟



みつかる。つながる。よくなっていく。

- 盛岡 YMCA 本部事務局 〒020-0015 盛岡市本町通 3-1-1ST マンション 201 TEL 019-623-1575
- YMCA 本町センター 〒020-0015 盛岡市本町通 3-1-1ST マンション 1F TEL 019-623-1575
- YMCA 前潟センター 〒020-0148 盛岡市前潟 1-5-31 TEL 019-641-5822
- YMCA 向中野センター 〒020-0851 盛岡市向中野 2-39-6 TEL 019-601-6099
- YMCA 盛南センター 〒020-0866 盛岡市本宮 2-3-25 TEL 019-681-0773